

令和5年12月19日（火）

1, 研究テーマ

社会に開かれた中学社会科の学びをめざして
～パフォーマンス課題を解決するための個別最適化～

2, 主題設定の理由

昨年度から鳥栖地区では、3年間にわたって地理的分野の研究を行う内の2年目になった。そのため、大枠のテーマとしては県のテーマである「社会に開かれた中学校社会科の学びをめざして」を踏襲し、サブテーマに示している3つの柱を年度ごとの重点目標として設定することにした。今年度は、学びのSTEAM化に焦点を当て生徒にとってリアルで切実感のあるパフォーマンス課題の設定に取り組む。その中で、タブレット型端末などの教育機器を活用し、課題に対して自らの意見を構築し発表する活動を通して、自ら進んで課題解決に取り組もうとする学びに向かう姿勢を身に付けさせたい。また、こうした実践を各学校で積み重ねていき、地区内で共有することを通して、次年度以降の研究につなげていきたい。

3, 研究の経過

第1回 地区社会科研修会

- ・研究テーマの決定
- ・公開授業実施校の決定

第2回 地区社会科研修会 8月25日（木）

- ・公開授業の検討

公開授業 基里中学校 10月5日（木）

第3回 地区社会科研修会

- ・各学校での取り組みの紹介

4, 研究の成果と課題

公開授業では3～4人の班を作り、班員の発表も聞きながら課題について考えさせた。既習知識を使って合併案を考えさせることで、問題点や解決のための道筋を構築できるよう工夫がなされた。

その後に行われた研究会では、次のような意見が出された。

- ・課題の設定については、切実感を含んだ課題にすることが難しい。
- ・今回の課題では、教師の思うところと生徒の思うところの差がでており、深い学びにつながっているとは言いづらい。
- ・「佐賀県に置き換えると」というテーマにすることで、身近なこととして考え発展した学びにできるのではないか。
- ・各地方の現状と佐賀県の未来を結びつけることが教師側の役割ではないか。

これらの意見などから、「大きなテーマは教員が設定し、細かいテーマは生徒自身に設定させることで、解決へのプロセスを考えることになり、個別最適化へもつながると考えられる。」という結論に至った。そのためには、時に教え込むような授業も必要になってくることも考えられ、それぞれのスタイルで1時間で完結するような簡易的なテーマでもよいので、学び合いを続けていくことが必要であるとされた。

第2学年2組 社会科学習指導案

日 時 令和5年10月5日 第5校時
場 所 2年2組教室
生徒数 27名（男子10名、女子17名）
指導者 教諭 福田 遼太郎

《指導のポイント》

大阪府の現状と課題を理解し、近畿地方の大阪府以外の府県の特徴を理解したうえで合併案を考える。「既習知識」を使い、未来予測をする「活用型」授業を行う。

1 単元名 近畿地方（帝国書院）

2 単元の目標 及び 評価規準

単元の指導目標	単元の評価規準【観点】
大阪府の現状と課題を知り、近畿地方のどの府県と合併すべきかについて考え、各府県の特徴を理解させる。	大阪府の現状と課題を理解し、さまざまな資料から各府県の特徴を適切に読み取ることで、合併案を考えている。【思考・判断・表現】
近畿地方の北部・中央部・南部では気候の特徴が異なっている理由を、地形や季節風との関わりから考えさせる。	地図や雨温図から、近畿地方の地形や気候の特徴を適切に読みとっている。【知識・技能】
京都、大阪、神戸を中心とする地域に人口が集中し、京阪神大都市圏が形成されていることを理解させる。	京阪神大都市圏の拡大と琵琶湖の環境保全の重要性に関心を持ち、意欲的に追究している。【学びに向かう態度】
阪神工業地帯が変化してきた背景を環境問題とのかかわりから理解させる。	阪神工業地帯の環境問題や環境保全の取り組みを理解し、その知識を身につけている。【知識・技能】
社会の変化にとまどない、歴史的な景観が変容していることに気づかせ、歴史的な環境を保全する意義を考えさせる。	さまざまな景観写真から、歴史的景観を守るための工夫や努力を適切に読み取ることができている。【知識・技能】
近畿地方で行われている林業・漁業では、環境保全のためにどのような取り組みを行っているのか理解させる。	さまざまな資料から、林業や漁業がかかえる現状と課題を適切に読み取ることができている。【思考・判断・表現】

3 指導計画（全8時間）

- (1) 大阪府の合併案・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間（本時3／3）
- (2) 近畿地方の自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏・・・・・・・・ 1時間
- (4) 阪神工業地帯と環境問題への取り組み・・・・・・・・ 1時間
- (5) 古都奈良・京都と歴史的景観の保全・・・・・・・・ 1時間
- (6) 環境に配慮した林業と漁業・・・・・・・・・・・・ 1時間

4 本時について

(1) 目標【評価の観点】

「合併案」の発表を聞き、資料を読み取り、どの府県が大阪府と合併すべきか判断し、根拠を明確にして表現することができる。【思考・判断・表現】

(2) 展開 (全8時間 本時 3/8)

過程	学 習 活 動	形態	教師の指導・支援等 (○) と評価 (◆)
導 入	1. 既習内容の「大阪府の現状と課題」や「合併案」発表のポイントについて、再確認する。	一斉	○発表活動がスムーズかつ効果的に行えるように、ポイントを押さえて発表し、聞くことができるよう指導する。
	2. 本時のめあてを確認する。 めあて：「大阪府が近畿地方のどの府県と合併すべきか」についての発表を聞き、自分の発表と照らし合わせ最適な合併案を作ろう。		
展 開	3. 「大阪府が近畿地方のどの府県と合併すべきか」についての発表を行う。	一斉	○大阪府の現状と課題を基に、根拠を明確にして合併案を提案し、電子黒板を用いて視覚的に説明するよう助言する。
	4. 「大阪府が近畿地方のどの府県と合併すべきか」についての他の班の発表を聞く。	一斉	○他の班が提案する合併案について、その根拠となる部分に重点を置き、評価シートに記入しながら発表を聞くように助言する。
	5. 各班の発表を聞き、大阪府はどの府県と合併すべきか、資料を基に最終案を考え、意見文を書かせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">班の友達と交流しながら理解を深め、自分の意見を他人に分かりやすいように文章で表現する。</div>	班	○班活動が円滑に進むように、資料が何を意味しているか分からない時は、班の友だちに聞くこと、聞かれたら丁寧に説明することを助言する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">◆評価規準 資料を適切に読み取り、近畿地方の各府県の特徴を理解し、大阪府との「合併案」を文章で表現することができる。【 思考・判断・表現 】 【知識・技能】(観察、ワークシート) A：資料を適切に読み取り、根拠を明確にして自分の意見を表現することができた生徒には、筋道を立てて班の友だちに説明させる。 B：資料読み取りができた生徒には、最終案を考え意見文を書かせる。 C：資料の読み取りができない生徒には、できている生徒に質問させ理解させる。</div>
ま と め	6. 次時の学習内容を知る。	一斉	○近畿地方では隣の府県同士がなぜ大きく特色が異なるのか疑問を持たせて次時につなげる。

【大阪府の合併案】(教科書p203~218)

1 活動班を作る 班のメンバー ()

2 担当府県を決める 京都府 兵庫県 滋賀県 奈良県 三重県 和歌山県

3 役割分担を行う スライドの作成(スライド進行) () ()
原稿を考える () ()
発表者 () ()
*お互いに助け合う *誰かに頼りきることはしない

<スライド作成のルール> スライド枚数・・・4~6枚
制限時間・・・4~5分
動画利用は無し

<発表のポイント> 原稿の棒読みは×
根拠を明確にして合併案を伝える
(大阪は〇〇が課題なので、△△という特徴がある□□県と合併すべき~)
・教科書やプリントの資料を見せる(「〇〇ページの△△を見てください~)
・スライドにデータを載せる。

<原稿>

大阪府は
(京都府 兵庫県 滋賀県 奈良県 三重県 和歌山県)と合併すべきだと考えます。

なぜなら、

<思考・判断・表現>

<スライドイメージ図>

<フリースペース>

【大阪府の合併案】(教科書p203~218)

論題「大阪府は近畿地方のどの府県と合併すべきだろうか?」について、意見文を完成させましょう。

問:大阪府は近畿地方のどの府県と合併すべきだろうか?

A. 京都府 B. 兵庫県 C. 滋賀県 D. 奈良県 E. 三重県 F. 和歌山県

*下の評価基準(ルーブリック)を参考にして、より論理的な文章表現になるように挑戦しよう。

評価\基準	大阪府の課題について	合併する府県について	文章表現について
4	大阪府の課題について理解している	合併する府県の特徴を理解している	根拠を明確にして表現しており説得力がある
2	大阪府の課題について部分的に理解している	合併する府県の特徴を部分的に理解している	根拠が不十分であり、やや説得力に欠ける
0	大阪府の課題を理解していない	合併する府県の特徴を理解していない	根拠が明確と言えず、説得力がない

私は論題に対し大阪府は

(A. 京都府 ・ B. 兵庫県 C. 滋賀県 D. 奈良県 E. 三重県 F. 和歌山県)と合併すべきだと考えます。

なぜなら、

大阪府は近畿地方のどの府県と合併すべきか？

～大阪府の現状と課題～

課題①自然が少なく農業がさかんではない

大阪府は、子どものころから健康的な生活習慣が身についておらず、がん、心臓病などの生活習慣病となる人が増えています。また、人生100年時代と呼ばれる現代、健康寿命を延ばすことも課題です。予防のためには、学校と家庭、地域、飲食店等と連携した総合的な食育をすすめる必要があります。

大阪府では、野菜を食べる量が少ない、朝食を食べない子どもが多いことから「野菜バリバリ朝食モリモリ」「野菜あと100g、朝食で野菜を食べよう！」を合言葉に食育に取り組んでいます。

課題②工業がさかんだが・・・

大阪府は工業がさかんであり、第二次世界大戦後、阪神工業地帯の中心として日本の工業を支えてきました。しかし、工場が多い分、工業用地や工業用水が不足しており、公害等の問題も見られます。大阪湾をこれ以上汚したくないという声も多く新たな用地や水を得る場所を探しています。

課題③世界遺産や文化財・伝統工芸品が少ない

世界遺産や文化財・伝統工芸品が多い近畿地方の中にあり、大阪府には唯一世界遺産がなく、文化財や伝統工芸品も少ない状態です。これらが増えると観光客も増え経済発展が見込めるかもしれません。

課題④学力が低い

大阪市のこどもは、学習習慣が身についていない傾向がみられ、学習意欲を高めていくことが重要です。また、大阪府は中学生読書率が47位と最下位となっています。読書は言語力の育成に重要な活動ですが、大阪市のこどもは、テレビやDVD、動画サイトを見る時間が長い一方で、読書意欲が低い傾向や読書習慣が十分に定着していない傾向がみられます。本に親しむ環境づくりを進めるなど、こどもや青少年の言語力を豊かにしていくことが重要です。

課題⑤朝食を食べる割合が低い

大阪市のこどもは、朝食を毎日食べない割合が高い傾向や就寝時間が遅い傾向がみられるなど、生活習慣に課題がみられます。生活習慣は生涯を通じた健康の保持増進にとって大切であることはもとより、学力にも関連するなど、心身の健やかな成長や生涯の生き方にも影響を与える重要なものです。



近畿地方の各府県の特徴

【資料1 近畿地方の農業産出額】

【資料2 全国のたまねぎ・レタスの収穫量】

全国順	府県名	(億円)
21	兵庫	1,608
29	三重	1,091
31	和歌山	1,011
37	京都	719
41	滋賀	586
45	奈良	408
46	大阪	341
	全国計	88,631

【2015年】

順	県名	たまねぎ		レタス		
		(t)	(%)	県名	(t)	(%)
1	北海道	843,700	67.9	長野	191,500	33.7
2	兵庫	87,000	7.0	茨城	87,400	15.4
3	佐賀	84,100	6.8	群馬	49,100	8.6
4	愛知	31,900	2.6	長崎	32,900	5.8
5	長崎	24,700	2.0	兵庫	30,600	5.4
	全国計	1,243,000	100	全国計	568,000	100
		【2016年】		【2015年】		

【資料3 全国のうめ・みかんの収穫量】

【資料4 全国のキウイの収穫量】

	うめ			みかん		
	県名	(t)	(%)	県名	(t)	(%)
1	和歌山	60,300	65.0	和歌山	161,100	20.0
2	群馬	4,730	5.1	愛媛	127,800	15.9
3	奈良	1,920	2.1	静岡	121,300	15.1
	全国計	92,700	100	全国計	805,100	100

【2016年】

キウイフルーツ		
県名	(t)	(%)
愛媛	5,230	20.4
福岡	4,120	16.1
和歌山	3,810	14.9
全国計	25,600	100

【2016年】

【資料5 全国の茶の収穫量】

【資料6 全国の工業製品出荷額】

	府県名	(t)	(%)
1	静岡	30,700	38.3
2	鹿児島	24,600	30.7
3	三重	6,370	7.9
4	宮崎	3,760	4.7
5	京都	3,190	4.0
6	福岡	1,870	2.3
7	奈良	1,720	2.1
	全国計	80,200	100

【2016年】

(従業者4人以上の事業所)

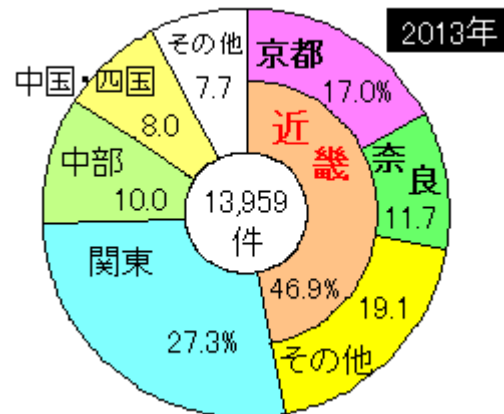
順	府県名	(億円)	(億円)
1	愛知	42,001	43,604
2	神奈川	17,226	17,626
3	大阪	16,024	16,325
4	静岡	15,699	16,063
5	兵庫	14,026	14,776
6	千葉	13,003	13,710
7	埼玉	11,787	12,304
8	茨城	10,901	11,358
9	三重	10,409	10,503
10	広島	8,555	9,538
	全国計	292,092	303,418
		【2015年】	【2016年】

【資料7 大阪府・兵庫県が上位を占める工業品目】

【資料8 全国の文化財の割合】

単位(億円) 【2013年】

順	鉄鋼業		非鉄金属		金属製品	
1	愛知	24,420	大阪	6,953	大阪	13,978
2	兵庫	18,342	愛媛	6,532	愛知	13,541
3	千葉	16,997	茨城	6,489	兵庫	7,505
4	広島	13,692	埼玉	5,203	茨城	7,173
5	大阪	13,413	大分	5,158	埼玉	6,778
	全国計	179,490	全国計	88,281	全国計	133,187



順	はん用機械器具		繊維工業		化学工業	
1	兵庫	11,303	愛知	4,246	千葉	30,215
2	愛知	9,082	大阪	3,233	大阪	19,918
3	大阪	8,815	岡山	2,652	神奈川	17,604
4	神奈川	7,810	福井	2,399	埼玉	16,401
5	茨城	7,396	石川	1,999	静岡	16,335
	全国計	102,929	全国計	39,059	全国計	274,683

【資料9 近畿地方の世界遺産】

兵庫	姫路城
三重	紀伊山地の霊場と参詣道
和歌山	紀伊山地の霊場と参詣道
京都	古都京都の文化財
奈良	法隆寺地域の仏教建造物 古都奈良の文化財 紀伊山地の霊場と参詣道
滋賀	古都京都の文化財
大阪	なし

【資料10 近畿地方の伝統工芸品】



【資料1 1 全国学力テスト正答率】
(2017年、小中の平均)

順位	都道府県	正答率
1	石川県	70.3%
2	秋田県	69.8%
8	京都府	66.1%
15	兵庫県	65.5%
25	和歌山県	64.6%
28	奈良県	64.5%
34	三重県	64.1%
42	佐賀県	63.8%
45	滋賀県	62.9%
45	大阪府	62.9%

【資料1 2 中学生朝食摂取率】
(2017年中学3年生)

*毎日食べている、どちらかといえば食べている

順位	都道府県	朝食摂取率
1	石川県	96.2%
2	秋田県	96.1%
15	佐賀県	94.5%
21	滋賀県	94.0%
28	三重県	93.6%
35	兵庫県	92.8%
39	京都府	92.4%
42	和歌山県	91.9%
46	奈良県	91.1%
47	大阪府	90.7%

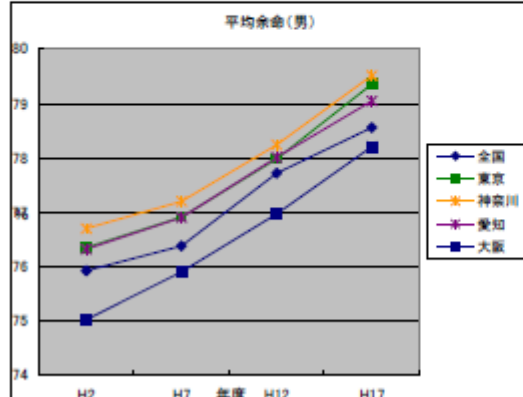
【資料1 3 男子小中学生体力テスト】

順位	都道府県	正答率
1	福井県	52.12ポイント
2	秋田県	51.43ポイント
20	佐賀県	48.20ポイント
22	京都府	48.17ポイント
27	滋賀県	47.97ポイント
32	兵庫県	47.39ポイント
39	三重県	46.96ポイント
40	和歌山県	46.62ポイント
46	奈良県	45.93ポイント
47	大阪府	45.43ポイント

【資料1 4
男女別平均余命】
(H2→H17)

平均余命(男)

	平均余命(男)				H2⇒H17(%)
	H2	H7	H12	H17	
全国	75.92	76.38	77.72	78.56	103%
大阪	75.02	75.9	76.97	78.21	104%
東京	76.35	76.91	77.98	79.36	104%
神奈川	76.7	77.2	78.24	79.52	104%
愛知	76.32	76.9	78.01	79.05	104%



平均余命(女)

	平均余命(女)				H2⇒H17(%)
	H2	H7	H12	H17	
全国	82	83	84	85.45	104%
大阪	81	83	84	85.2	105%
東京	82	83	84	85.7	104%
神奈川	82	83	85	86.03	104%
愛知	82	83	84	85.4	105%

